

高麗文獻三流之書

天照大神大天之靈王
 之時初之靈王
 之靈王
 子細之傳行家



臨

麻利支天

梵天

孔之廣り六分長二寸八分册付之册可
 二分合四寸總用ハ文字枚ハ傳
 命册下總糸五色上縫白糸大伏縫ハ
 右

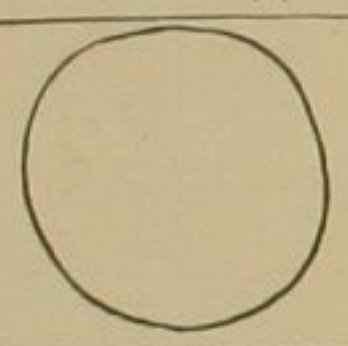
室壁奎婁

六

冒昂畢鬮

關

正觀音
 帝釈
 譯



貧祿星

藥師
 軍亮利
 釋迦



臨

麻利支天

梵天

婁奎壁室

兵

正觀音
帝新
諱世

觜畢昴胃

關

藥師
軍陀利
釋迦

鬼井參

者

大威德
四天王

張星柳

皆

阿彌陀
金剛變

角軫翼

陳

大日
大黑

亢
凶
房

烈

大夜
不星天

孔之廣リ六分長二寸八分所付之照可
二分合四寸總月ハ文字教ハ傳
命可下總糸五色上縫白糸九伏縫之
右伏縫之

星祿貧

星文巨

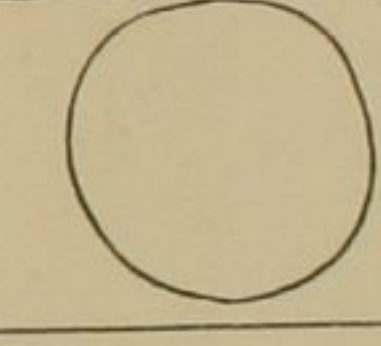
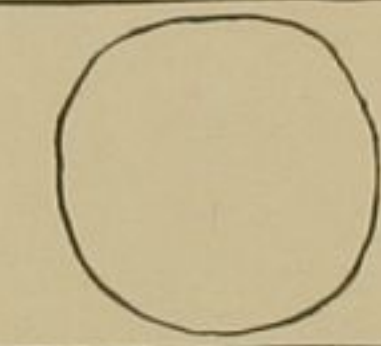
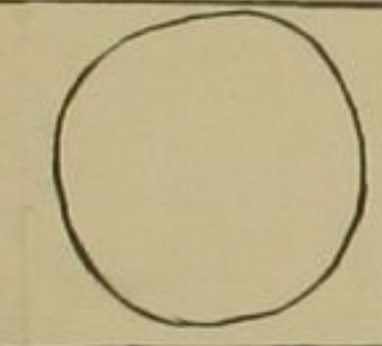
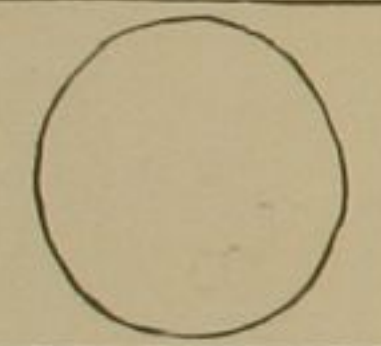
星存祿

星西父

星貞廉

星曲武

破



孔數上五十三中二十六下十八傳

荒神

前

手繩 金剛童子 不動明王

幕加持口傳主人具足而唐擯腰懸
東向師南向東幕打先護身法決九
字劔印以幕加持ス

摩利支天叱百返唱唵々如律吟下可唱

千金真傳元賢可我可信云

一幕に「書字」在拾支杖交々散
不書戴口傳云

一幕は「書字」布六強の「繩」
又強は「書字」繩二強に刻々思白
と云世々々々々々々々々々々々

一戴時「書字」を女は「書字」
ひの「書字」神より可白なり日に戴
前「書字」

一綾交の「書字」の「書字」
一繩は「書字」の「書字」

一「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」
時「書字」の「書字」

一「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」

一「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」

一「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」
「書字」の「書字」の「書字」

時に緩布や中々一
一乳の教は八天の元名を教ふ此は二十
六卷の教は流大將廿八の用之法は元
八卷の教

一蒙中少の八中も大龍を成るる事長八の
一蒙加持の事本言の八幅摩利又も一人
我は神の掛は多し行り勝軍もは成る
後中も多様ともし行り名をてし一人蒙
の同り籠子一具蝶籠包鈍子籠に信云籠
子と出すし行り去時人上の一具計蝶
形包も有針計包は布勝も去則一
向し一有取の持方勝一取も可觀也
一師道懐る前護佛法次は字も後飯
印も取つ一之蒙中の乳本臨も其三厨
四者又皆六陳七然も在九前餘も
も向も極蒙法加持も

一此も八人蒙も持るも其も八事
一取もは合も之蒙一流法也其
も得も地養も一と一も是も得も其も一
之者も

右此一巻於御當家別

而為我書幕一流相傳
難成事候雖然勝野言
り傳受在之通其言に致教
授候雖為一事口外候者可
口惜者也

右此一卷於御當家別
而為我書幕一流相傳
難成事候雖然勝野正吉
三傳受在之通其言上致教
授候雖為一事口外候者可
口惜者也

空原信益道

三悅

箕輪治兵衛尉

言勝

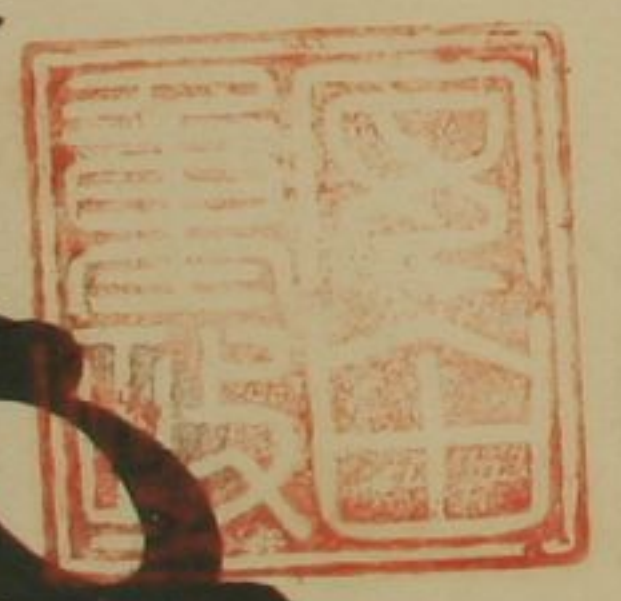
勝野弥兵衛尉

正吉

羽田兵衛尉

宝永四年晚禱吉也

重政



口惜者也

小笠原信益道

三悅

箕輪治兵衛尉

言勝

勝野弥兵衛尉

正吉

羽田五兵衛尉

宝永四年晚禱吉小

重政



永井甚五郎殿

羽田五光齋厨

宝永四年院禪吉也

重政



永井甚五郎殿